

芦屋市立精道小学校

「阪神淡路大震災を語り継ぐ」

《2025年度活動の要旨》今から31年前、1995年1月17日午前5時46分マグニチュード7.3の兵庫県南部地震が起きました。私たちの芦屋市立精道小学校校区は7割が全半壊という被害を受け、その地震により、8人の子どもと6人の保護者、精道小学校に入学してくるはずだった15人の子どもが亡くなりました。精道小学校では、この日を忘れないために、毎年1月17日には全校生で追悼式を行っています。また、各学年1年間を通して防災安全や命について学習をしています。各学年の取り組みは以下の通りです。

学年	学習内容
1年生	震災で亡くなった精道小学校に入学してくるはずの女の子みりちゃん(当時5歳)の育てていた朝顔の植木鉢が見つかり、そこからとれた朝顔の種を毎年1年生が育て、次の1年生に引き継げるように大切に育てています。
2年生	精道小学校のみんなを元気にするため、震災の次の年に運動場にひまわりの種を植えてくれたひまわりおじさんの種を植えて育てています。夏には大きなひまわりが咲いたことを紹介し、そこからとれた種を1年生に送りました。
3年生	震災から1年後、亡くなった方たちへできることはないかと話し合い建てられた祈念碑「祈りの碑」について学びました。碑の裏には亡くなった8人の子どもの名前が刻まれています。つくられた経緯や、込められた想いについて考えました。
4年生	大震災からの復興を願って2008年1月17日に、亡くなった子どもの数にあわせて8本植樹された「希望のりんご」を育てました。1年を通してりんごの木を観察し、収穫したりんごを使いリンゴジュースにして飲みました。
5年生	芦屋市の教職員で編集した防災学習絵本『この町がすき』を読み、この本に込められた想いについて考えました。芦屋に引っ越してきた主人公あやちゃんの想いの変化が、阪神淡路大震災の当時の様子を通して詳しく書かれています。芦屋で歌われる『この町がすき』の意味も考えました。
6年生	精道小学校で亡くなった8人の友達について、遺族の方や当時の担任の先生、または同級生の方から話を聞き、学びました。生きたくても生きられなかった8人の子どもたちのことを忘れないように、「生きることの意味」を自分が感じたことや考えたことものをせて5年生に語り継ぎました。

また、今年度は教職員で祈念誌『祈～忘れないあの日のことを 30年の想いをつないで～』を編纂しました。被災時と現在を比較した写真や、当時の教職員や保護者・児童への聞きとり、現在の教職員の震災に対しての想い、本校の今までの取組等をまとめ、今後の語り継ぎのために重要な役割を果たす資料となりました。子どもたちや教職員の学びとして活用していく予定です。

これからも精道小学校では、震災のこと、防災のこと、減災のこと、そして命のことをしっかりと語り継ぎ、次の世代へとつなげていきます。